



大学生
熊谷 平造さん
国籍：日本

幼稚園のころから中学校まで、クラスに外国人の友達がいきました。中には途中で転校してきて、まだ日本語ができない子たちや日本の食文化に慣れない子もいましたが、一緒に休み時間に遊んだり、部活動でともに汗を流すなど、交流することで日本に馴染み、すぐに仲良くなることができました。

母国の文化や言葉も教えてもらう機会もあり、互いの文化を理解し、日本人・外国人の枠組みがない学校生活でした。

小学校6年生のときに日本にやってきました。最初は日本語がわからなかったり、食文化の違いなど、とても不安でした。そんなとき、体育の授業で同級生に「一緒にやろう」と声をかけてもらって、とても嬉しかったです。

友だちと一緒に宿題をやったり、お菓子作りをしたり、交流の中で日本語を覚えることもでき、楽しい生活を送っています。



中学3年生
付 紫微さん
国籍：中国



看護師
松岡 ジャケリネ ケイコさん
国籍：ブラジル

私は生まれも育ちも日本で、看護師として働き始め、今年で5年目になります。

外国人にとって病院に通うことはとてもハードルが高く、通訳が見つからない場合は受診を諦める人もいます。そんな人たちが気軽に病院に行けるような環境を作りたいというのが、看護師をめざした理由の1つにもなっています。

言葉が通じない中で受診した人は、医師や看護師が身振り手振りで伝えようとしてくれたことがとても嬉しく感じたそうです。言葉が通じなくても、なんとか伝えようという気持ちがとても大切なのだと思います。



国際化の進む長浜の声

現在、長浜にはいろいろな国籍のいろいろな境遇の人たちが暮らしています。それらの人が、今の長浜についてどのように感じているか。困っていることや、国際化についての意見など様々な視点から話を聞きました。



会社員
比屋根 幸広さん
国籍：ペルー

日本には21歳の時に移住してきました。最初のころは、言葉が通じないことが原因で、トラブルになることが多くありました。

今では日本語もわかるようになり、去年は自治会の組長を任せられ、周りの助けもあり、やり遂げることができました。子どもにとって安全な環境や、近所の皆さんの暖かいお付き合いなどもあり、これからもずっと日本で暮らしたいと思っていますが、仕事などに将来の不安を感じることもあります。



ブラジルからの帰国者
川口 日出登さん
国籍：日本

9歳の時に日本からブラジルに移住し、平成5年に日本に帰ってきました。最初は久しぶりの日本で、文化がわからず日本人と接するのがとても怖いと感じました。

文化を学び始めると日本人の親切さがわかるようになり怖さが全くなくなりました。

外国から移住する人は、ぜひ日本の文化を学び、日本人と接してほしいです。



地域国際化

お互いが歩み寄って進めよう！

「共に生きる」から「共に活躍する」まちへ

多くの外国人が暮らすまち

現在、長浜市では3千人を超える多くの外国人が暮らしており、約40人に1人は外国人市民という計算になります。地域活動や学校生活、職場。以前に比べると外国人と接する機会も増えたのではないのでしょうか。

学校では、外国人の保護者とのコミュニケーションのために、通訳や相談に対応するサポート支援員が定期的に巡回しています。お店ではメニューを多言語化したり、駅やバスでも英語のアナウンスを行うなど、『共に生きる』ために、外国人市民の皆さんが暮らしやすいまちづくりをおこなっています。

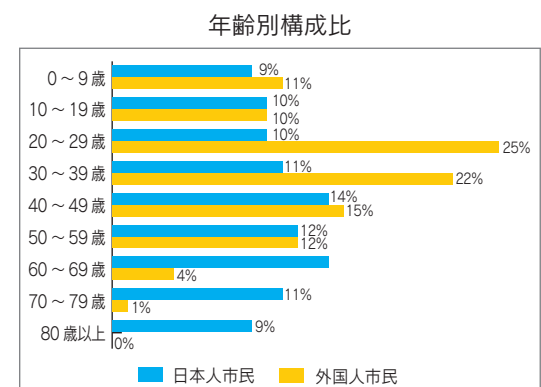
では、次の一步はどうでしょう。高齢化が顕著に進む一方、外国人市民だけを見ると、20代、50代のいわゆる「働き盛り」の人たちの割合が一番多いのです。これからは外国人市民の皆さんと『共に生きる』まちから、地域の活動や職場などで『共に活躍する』ことができるまちへと一步を踏み出してみませんか。

「働き盛り」が多い外国人

本市の外国人人口は、平成21年にピークを迎えました。一旦減少しましたが、平成27年を境に再度増加傾向となっています。

平成30年5月1日現在の本市の人口は約11万8千人。昨年の同時期と比べ1千人が減少している一方、外国人人口だけを見ると、約100人増えています。

年代割合を見ると、日本人の20代、50代の割合が38%にとどまっているのに対して、外国人は74%と非常に高い割合となっています。このデータからも「働き盛り」の外国人が年々増えているのがよくわかります。



住民基本台帳(平成30年5月1日)に基づき作成